

むろあじ類伊豆諸島周辺海域

評価対象種：クサヤモロ（伊豆諸島海域）



令和7年4月

資源の水準と動向「中位・減少」

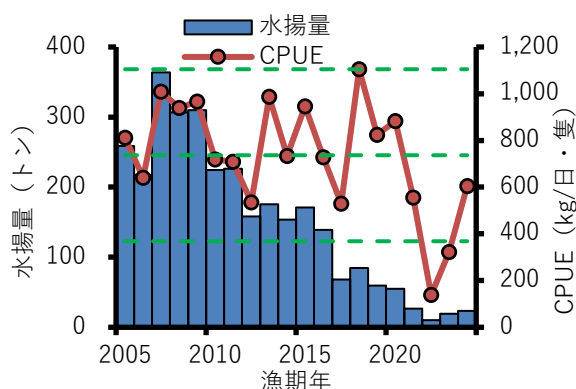


図1 水揚量と CPUE の推移

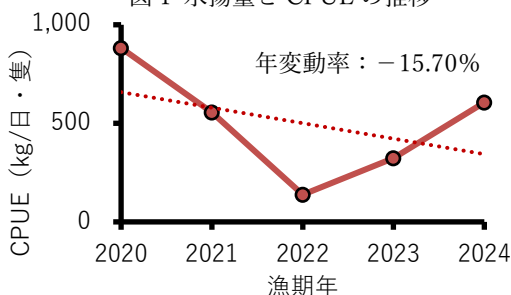


図2 棒受け網漁業による CPUE の年変動率

伊豆諸島海域におけるクサヤモロの水揚量は、2007年に最大値の364トンとなったがその後減少傾向を示し、2022年は10トンとなった。CPUE（棒受け網漁業1日1隻あたりの水揚量）は2020年まで増減を繰り返していたが、直近5年間は138.1～882.4 kg/日・隻で推移した（図1）。

本資源評価票での資源量指標値はCPUEとした。2024年における資源の水準は、資源量指標値としたCPUEが最大値となった2018年の1,104.8 kg/日・隻の1/3以上2/3未満である605.3 kg/日・隻のため「中位」とした（図1）。

資源の動向は、直近5年間のCPUEから算出した年変動率が-15.70%であり年間5%以上の減少が見られたため「減少」とした（図2）。

生態学的特性（クサヤモロ）

- 分布・回遊：東京都において、伊豆諸島海域から小笠原諸島海域に広く分布するが、主に黒潮の影響が強い三宅島から青ヶ島の沿岸に生息する [1](#)。
- 年齢・成長：1歳で尾叉長18.5 cm、2歳で24.9 cm、3歳で29.7 cm、最高齢は8歳と推定される ²⁾。
- 成熟・産卵：東シナ海において、産卵期は4～7月、生物学的最小形は尾叉長25.8 cmの2歳と推定される ²⁾。
- 被捕食関係：胃中から仔魚やプランクトン類が確認されているが、詳細は不明である [1](#)。

東京都におけるクサヤモロ漁

- 漁業：東京都漁業調整規則に基づく許可漁業である棒受け網漁業や定置網が営まれている。8～12月に操業する「八丈島周辺海域における棒受け網漁」では、魚価の下落を防止するため出荷可能量を勘案して1隻1日あたりの漁獲制限を実施している [1](#)。なお、近年は棒受け網漁業操業隻数が減少している。
- 漁法：棒受け網、定置網等により漁獲される。
- 管理：棒受け網漁業は、許可の制限措置の中で、許可隻数が制限される。三宅島では、定置網漁業で漁獲される本資源について東京都資源管理方針に基づく資源管理協定を策定し、自主的資源管理（禁漁期間の設定）に取り組んでいる。

- 1) [東京都水産試験場. 1984. 組織的調査研究活動推進事業報告書. 東京都水産試験場研究要報, 171: 1–51.](#)
- 2) Shiraishi, T., H. Tanaka, S. Ohshimo, H. Ishida and N. Morinaga. 2010. Age, growth and Reproduction of two species of scad, *Decapterus macrosoma* and *D. macarellus* in the waters off southern Kyusyu. JARQ, 44: 197–206.